

## 平成27年度「全国学力・学習状況調査」における 菅生 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語・数学・理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、数学、理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・ 実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力</li></ul>

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

菅生 中学校「平成27年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査(国語A・B、数学A・B、理科)結果

		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
平成 2 5 年度	本市	74.7	65.0	60.3	38.2	
	全国	76.4	67.4	63.7	41.5	
平成 2 6 年度 (理科：平成24年度)	本市	77.2	47.6	62.4	54.4	48.6
	全国	79.4	47.6	67.4	59.8	51.0
平成 2 7 年度	本市	73.9	63.1	61.6	37.7	50.0
	全国	75.8	65.8	64.4	41.6	53.0

② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には、全国平均正答率を上回った。全体の無解答率は県平均、市平均よりも低く、生徒の意欲があらわれている。領域別では、読むことと、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項は、全国平均正答率を上回ったが、書くことは全国平均正答率を下回った。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	語句(口火を切る、たなびく雲)の意味を理解し、文脈の中で適切に使う問題や、手紙の書き方を理解して書く問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	表現の技法について理解する問題や、漢字(詳細)を読む問題、文脈に即して漢字(アマったお金)を正しく書く問題は、正答率が低かった。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全体的には、全国平均正答率を下回ったが、話すこと・聞くことは全国平均正答率を上回った。全体の無解答率は県平均、市平均よりも低く、生徒の意欲があらわれている。書くこと、読むことは、全国平均正答率を下回り、問題の文章を理解して、自分の考えを書くことに課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	効果的な資料を作成し、活用して話す問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	文章の中心的な部分と付加的な部分などを読み分け、要旨を捉える問題は、正答率が低かった。	

数学A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には、全国平均正答率を下回ったが、特に図形、関数、方程式の分野で大きな課題がある。全体の無解答率は県平均、市平均よりも低く、生徒の意欲があらわれている。資料の活用は全国平均正答率を上回ったが、分野にかかわらず、数量や図形に関する知識理解を深めていく必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解する問題(さいころを投げるときの確立について正しい記述を選ぶ)は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	図形に関する問題(同位角、多角形の内角の和等)や、比例、反比例に関する問題、等式を目的に応じて変形する問題( $2x-y=5$ を $y$ について解く)、方程式の問題(少数を含む一次方程式、連立二元一次方程式)は、正答率が低かった。	

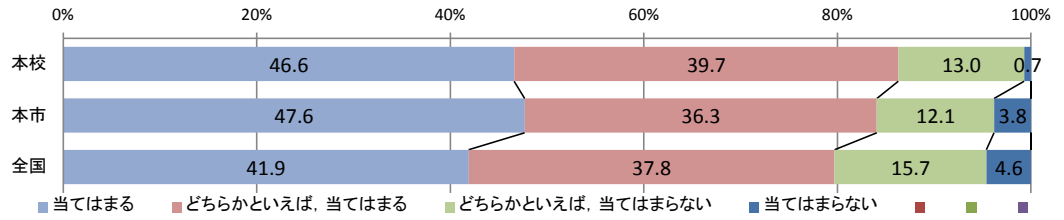
数学B	全体的な傾向や特徴など	・全体的には、全国平均正答率を下回っており、特に図形の分野で大きな課題がある。全体の無解答率は県平均、市平均よりも低く、生徒の意欲があらわれている。全国平均正答率を上回る問題もあったが、分野にかかわらず、数量や図形に関する知識理解を深めていく必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	必要な情報を選択して的確に処理し、その結果を事象に即して解釈する問題(投影画面の大きさと投影距離)は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	図形に関する問題(正方形と平行四辺形を使った証明、円すいの底面の半径と側面のおうぎ形の中心角の関係等)は、正答率が低かった。	

理科	全体的な傾向や特徴など	・全体的には、全国平均正答率を下回ったが、全体の無解答率は県平均、市平均よりも低く、生徒の意欲があらわれている。領域別では、科学的領域と地学的領域、評価の観点別では観察・実験の技能、自然事象についての知識・理解が全国平均正答率を上回った。主として「活用」に関する問題に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	水溶液の溶質と水のそれぞれの質量を求める問題や、二酸化炭素の体積を、水上置換法では正確に測れない理由を説明する問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	気圧の変化で菓子袋が膨らむことについてモデルを使った実験を計画する問題や、グラフを分析して解釈し、化学変化について正しく読み取る問題は、正答率が低かった。	

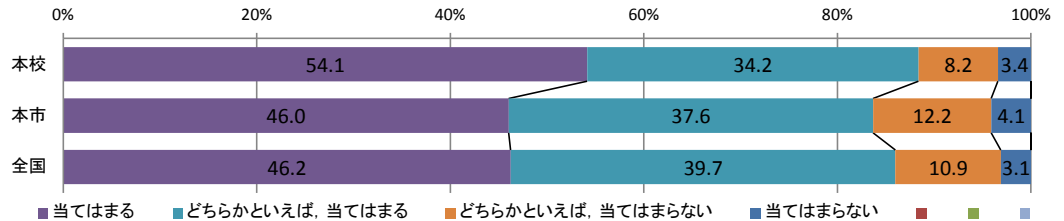
③ 学校での学習状況に関する調査結果

質問番号
質問事項

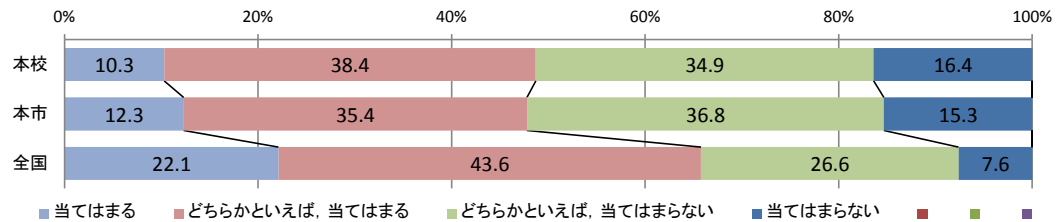
41
授業のはじめに目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか。



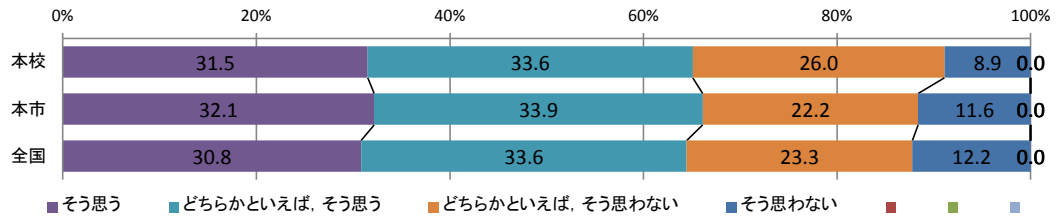
38
授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか。



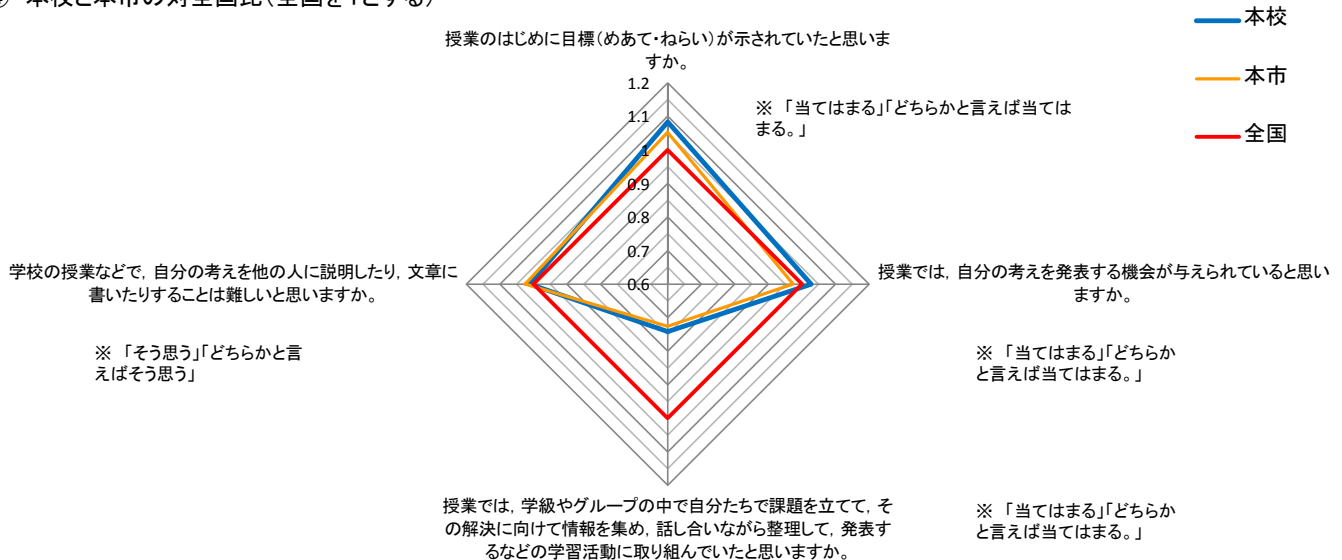
40
授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか。



45
学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか。



④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



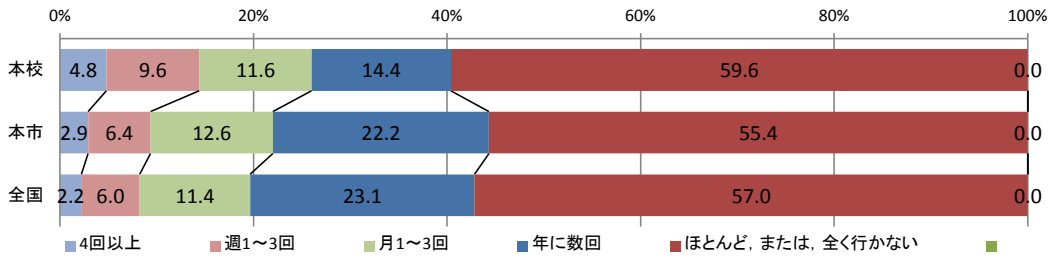
⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

授業の初めに目標が示されていたと解答した生徒、授業の中で自分の考えを発表する機会が与えられていると解答した生徒は、全国平均を上回った。授業の中で目標を明確にし、生徒の意見を引き出して授業を進める授業改善の成果があらわれている。授業中での話す活動の不足は、これまで本校の課題であったが、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることが難しいと考えている生徒が、全国平均をやや上回っていることなどから、今後も授業における話し合い活動を取り入れるとともに、話し合う活動の基盤となる基礎学力を定着させることが必要であるとする。本校は、基礎的・基本的な学習の定着に、継続的に取り組んでいるが、これらの取組をこれからも粘り強く継続する必要がある。また、生徒の能力に応じて、授業における話し合い活動を取り入れていく。

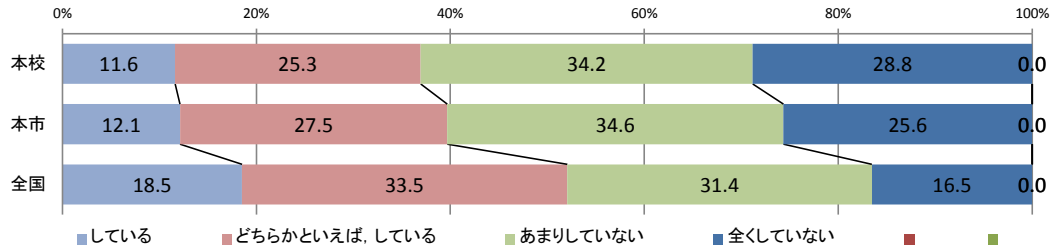
## 2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

### ① 家庭学習習慣に関する調査結果

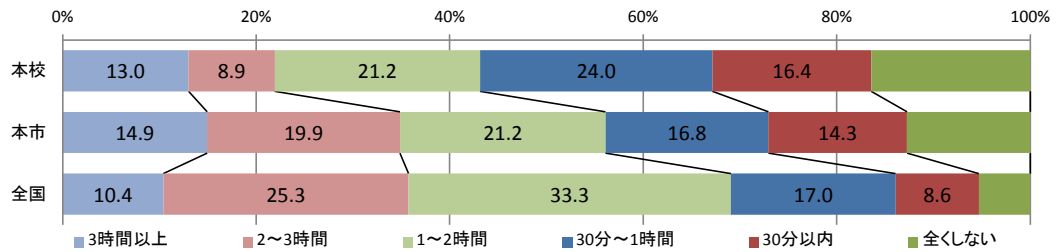
17  
 昼休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。)を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか。



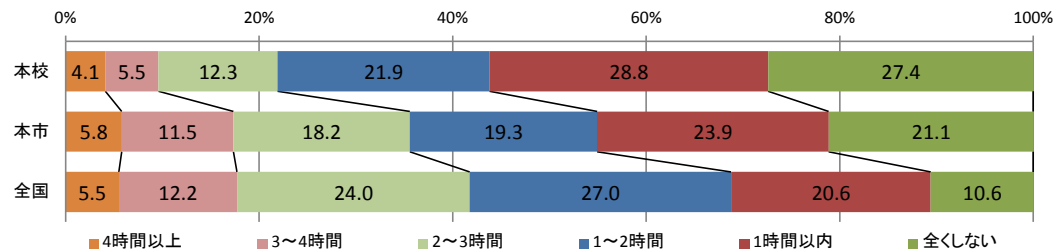
23  
 家で、学校の授業の復習をしていますか。



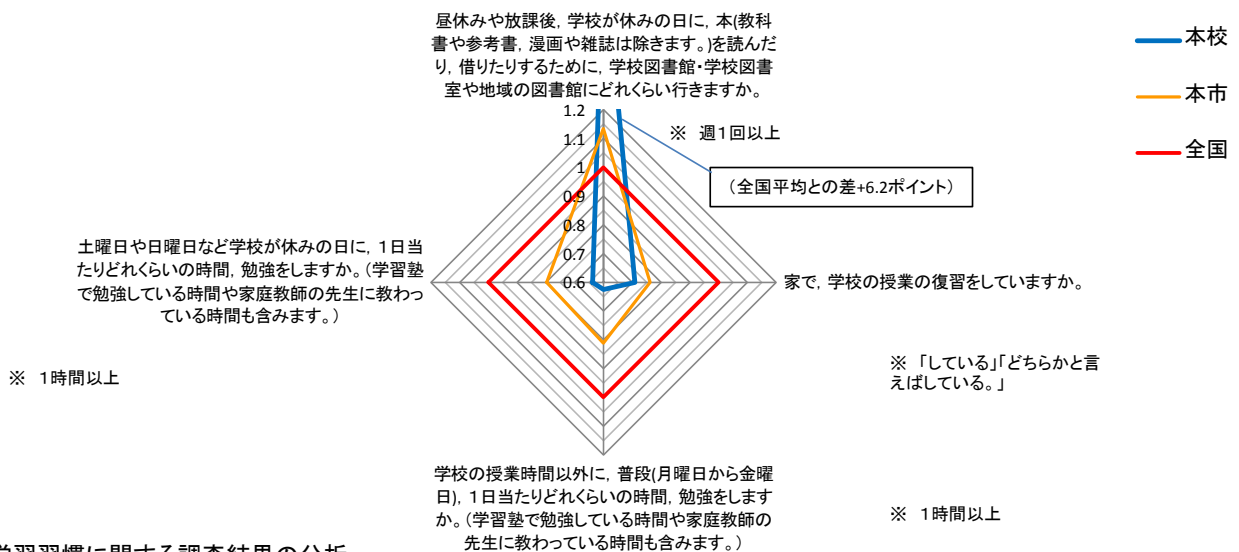
13  
 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。)



14  
 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。)



### ② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)

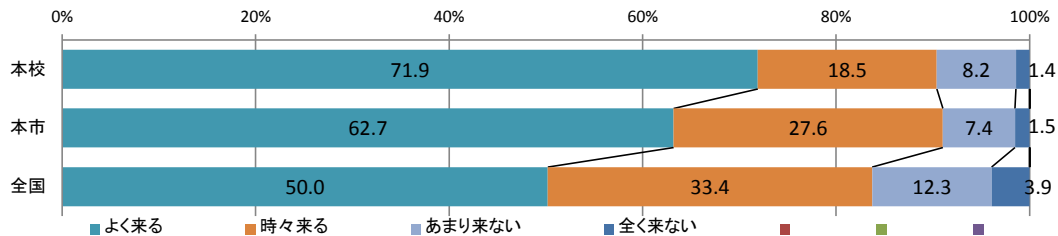


### ③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

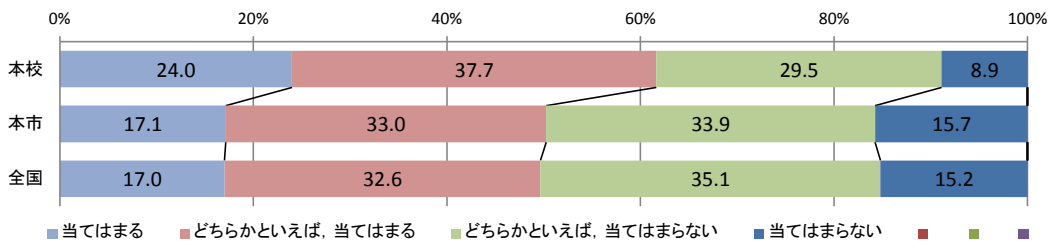
学校図書館や地域の図書館等の利用に関して、月一回以上の頻回利用する生徒は全国平均を大きく上回っており、朝読書の取り組みなどが成果を上げ、生徒の読書への関心が高まっていると考えられる。一方、平日の家庭学習時間、休日の家庭学習時間は、全国平均を下回った。家庭での学習時間の不足はこれまでも本校の課題であったが、家庭との連携を強化し、これまでの家庭学習に関する取組を継続するとともに、工夫改善していく必要がある。

④ 生活習慣等に関する調査結果

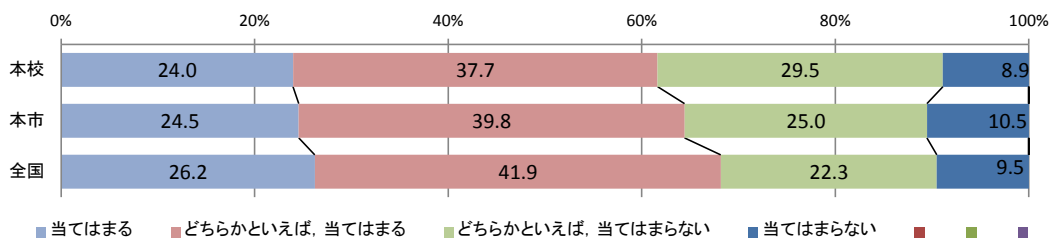
19  
家の人(兄弟姉妹は含みません。)]は、授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか。



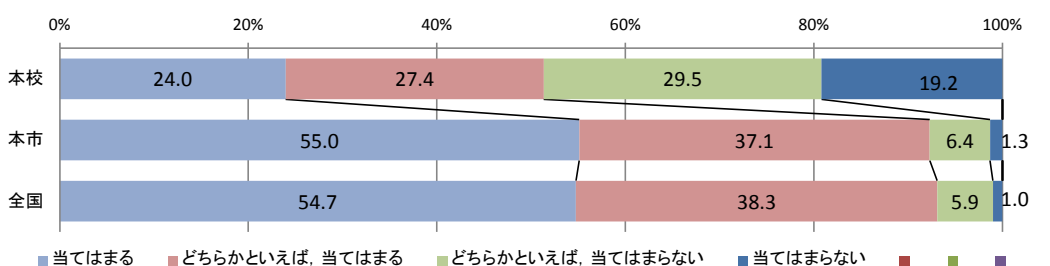
7  
友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか。



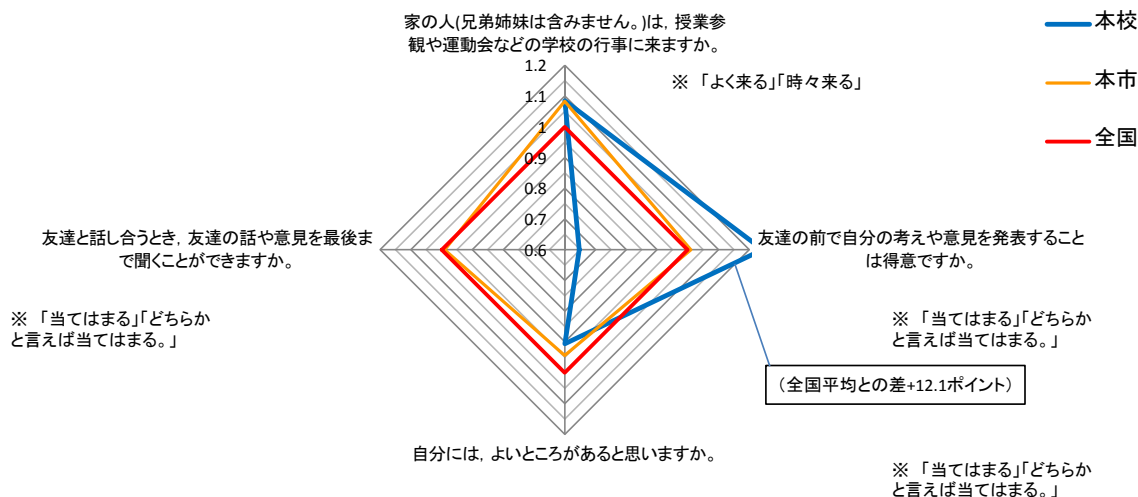
6  
自分には、よいところがあると思いますか。



8  
友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか。



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果から分析される傾向

家の人の学校行事への参加が、全国平均を上回り、学校行事への関心の高さがうかがえる。また、自分の考えや意見を発表することは得意だと感じている生徒の割合が、全国平均を大きく上回ったが、友達の話や意見を最後まで聞くことができると考える生徒の割合は、逆に全国平均を下回った。そして、自分にはよいところがあると思いますかという質問に対する解答が、全国平均を下回り、自尊心の低さも課題である。よって、学校での学習状況に関する調査結果にも関連するが、基礎的な言語能力を高めるとともに、授業において話し合い活動を徐々に取り入れることで、コミュニケーション能力を高め、互いを認め合う関係づくりを構築することにより、自尊感情を上げていく必要がある。

### 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組(全校・学年・学級・教科毎の取

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

##### ◎ 基礎的・基本的な学習の定着

- 朝自習の取組
  - ・ 5教科豆テストと読書活動
  - ・ 朝自習確認テスト(合格するまで放課後再テスト、3学年)
  - ・ 天声人語の書き写し(1学年は毎日、3学年は定期的実施)
- 考査前を中心に各教科の基本事項を徹底できる演習問題「これだけはテスト」(目標点に達するまで繰り返し確認、1学年)
- 定期的な漢字小テストの実施
- 考査問題のやり直し
- 県立入試問題(数学)の「1番問題」を繰り返し実施(3学年)
- 授業ノート、ワーク、プリント、ファイル等徹底した点検(各教科担任、各学級担任等、全職員で点検)

##### ◎ 学習規律の徹底(菅生中「学習の5則」を各学級に掲示し指導)

##### ◎ 小中連携の取組

- 成績不振な生徒への支援(小学校との連絡を密にし、課題の把握、対応策の検討を行う)
- 小中一貫・連携教育推進サポーターとの協働・連携(活動補助・教材開発、作成・採点補助・傾向分析)
- 小中(5校)合同研修の実施(実態把握、課題の共有、各校の取組紹介、共通課題設定、取組の検証 等)
- 互いの授業参観
- 小学校への出前授業

##### ◎ 言葉の力を高める取組

- 読書の取組(朝読書週間・学級文庫設置・図書館開放(毎日昼休み、放課後)・図書館整備)
- 行事ごとに行う作文指導
- 機会を捉えての新聞作成、レポート作成(各教科、行事等)
- 初読の感想と学習後の感想書き(国語科)

##### ◎ 授業での取組

- 自分の考えを交流するなどの対話活動
  - ・ 課題に対する意見交流
  - ・ 他者の意見に対して自分の意見を考え発表する
  - ・ 意見交換を生かして、よりよい解決策をグループで考える 等
- 習熟度別指導(学力別に2グループをつくり、教え合う活動)
- 授業開始後5分間の復習の時間
- 課題を早く終えた生徒用の別課題

##### ◎ 定期考査前に放課後質問教室を実施

##### ◎ 過去問題の分析・練習

- 授業での個々問題、活用ワークの利用
- 長期休暇中の課題としての活用

##### ◎ 「書く」ことの継続

- 短文・新聞コラム等の書き取り
- 生活の記録等の日記

##### ◎ 生徒による取り組み

- 学習委員会の授業態度点検・定期考査に向けた予想問題づくり
- 生活委員会による遅刻チャーム席点検

##### 菅生中「学習の5則」

- ① 教室内を整頓する
- ② チャーム着席を守る
- ③ 始めと終わりの挨拶をきちんとする
- ④ 姿勢を正す
- ⑤ 授業は目で聞く

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

##### ◎ 家庭学習の取組

- 家庭学習における時間活用の指導
- 学習計画表・実施報告書の点検
- 各学年で調整して行う宿題(主に各教科の予習・復習等)
- 自学ノートの点検(定期考査時期等に実施 家庭学習マイスターへの積極的な応募)
- 「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用(各教科、部活動において適宜実施 朝回収し、点検を行う)
- 夏期・冬期休業の課題における過去問題の活用
- 週末課題の実施(1・2学年共通課題など 2学期～)

##### ◎ 学習や生活に関する取組の家庭への周知・啓発

- 学校便り・学年通信・生徒指導部からのお知らせ・HP・校内での掲示物・PTA理事会・家庭教育学級等での取組内容、学習方法の紹介
- 校内掲示物の充実

##### ◎ 小中連携の取組

- 合同研修や連絡会における情報交換